

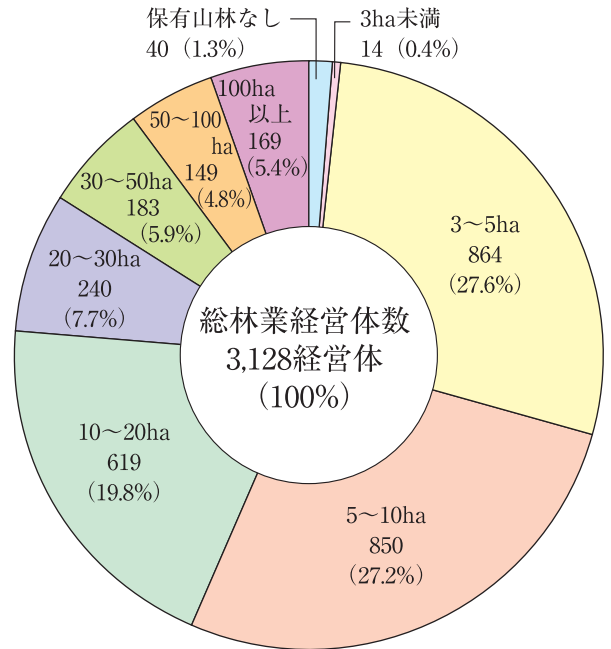
2 林業部門

1) 林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体数は、3,128経営体となっており、保有山林規模別では、10ha以下の経営体が総数の57%を占め、規模の小さな経営体が多い。

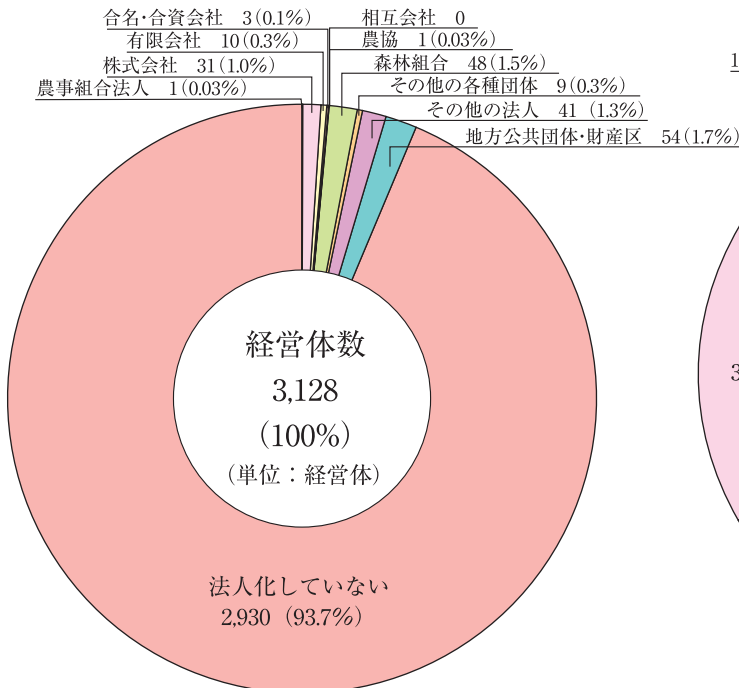
また、組織形態では、法人化していない経営体が94%を占め、林業従事日数150日以上に従事者を有する経営体（家族経営）は5%と少ない。

保有山林規模別林業経営体数



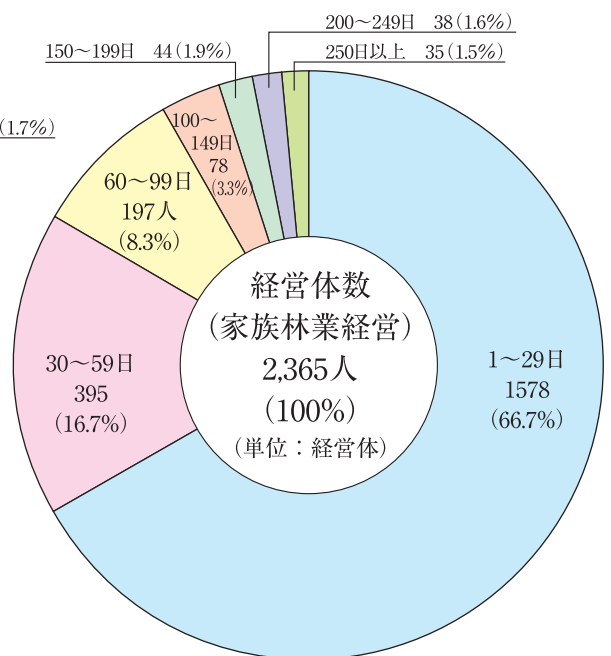
(2005年農林業センサス)

組織形態別経営体数 (平17)



(2005年農林業センサス)

日数別事業体数 (平17)



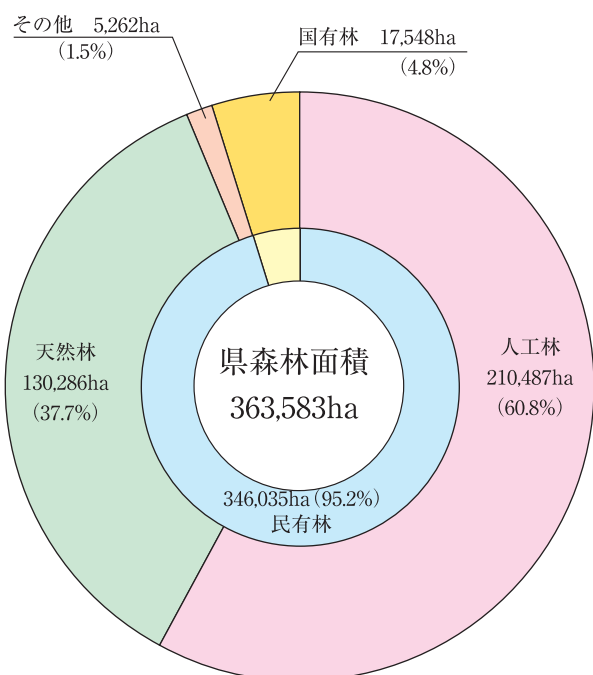
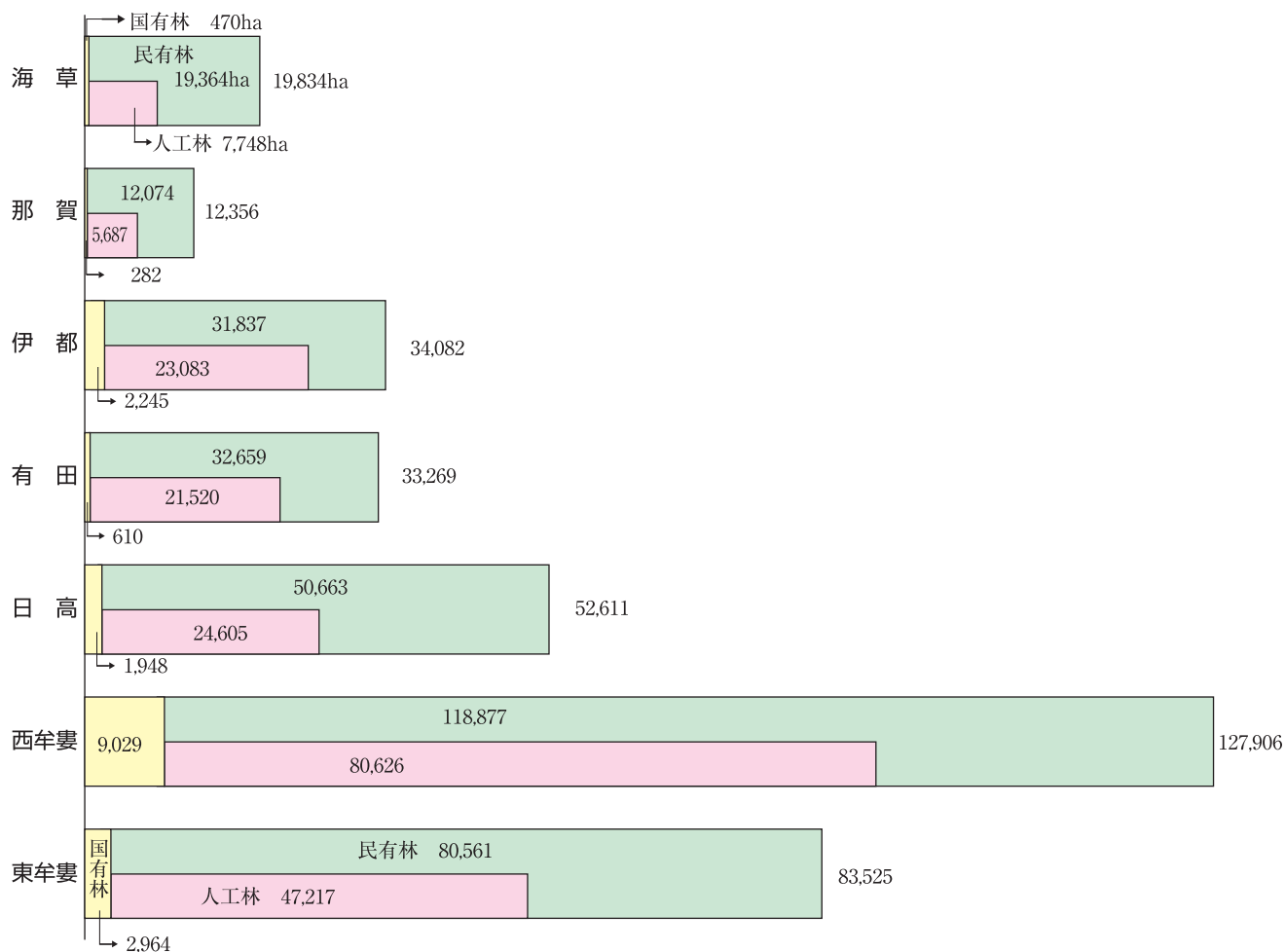
(2005年農林業センサス)

林業経営体数						
〔平17〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名
林業経営体数	200,224	3,128	29	1.6	北海道	岩手岐阜

2) 森林資源・林業生産基盤

郡別・森林面積（平19.4.1現在）

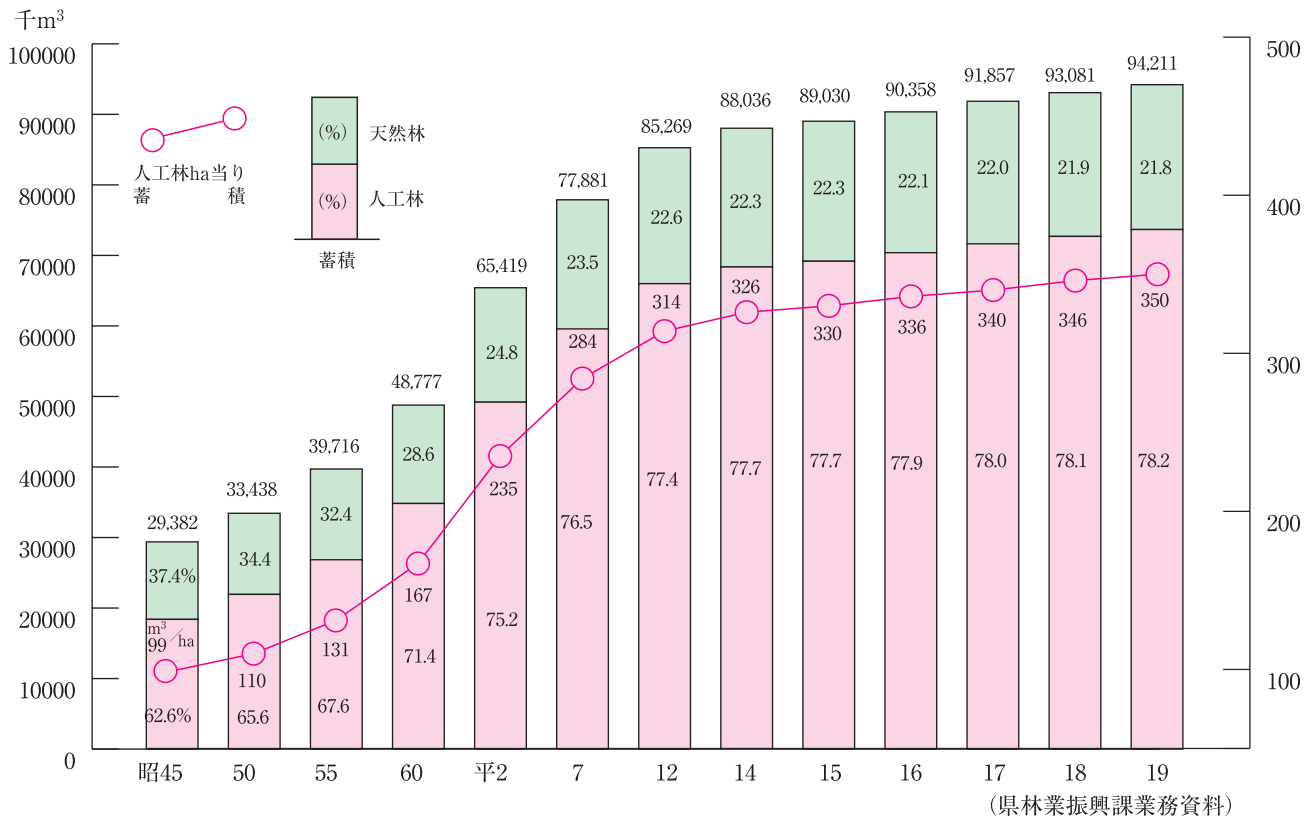
県の森林面積363,583haのうち、国有林は4.8%、民有林は95.2%で、民有林のうち、人工林は60.9%である。



(県林業振興課業務資料)

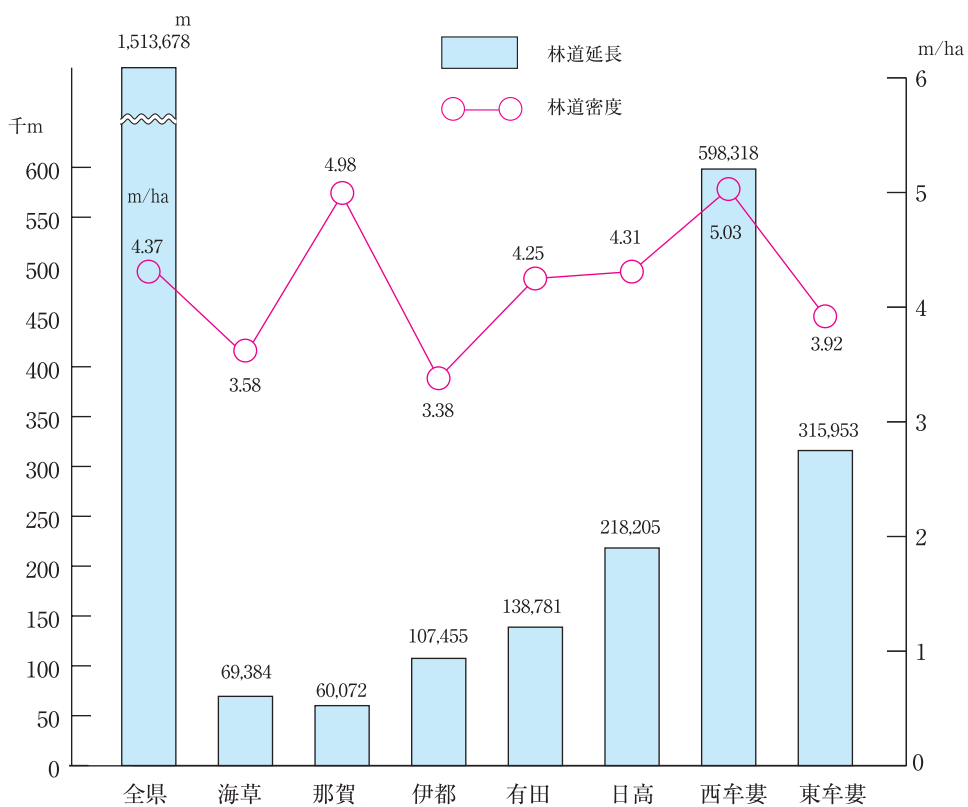
森林資源（私有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：345,503ha）

戦後植林された森林資源が成熟しつつある。



郡別私有林林道延長及び林道密度（平18.4.1現在）

生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。

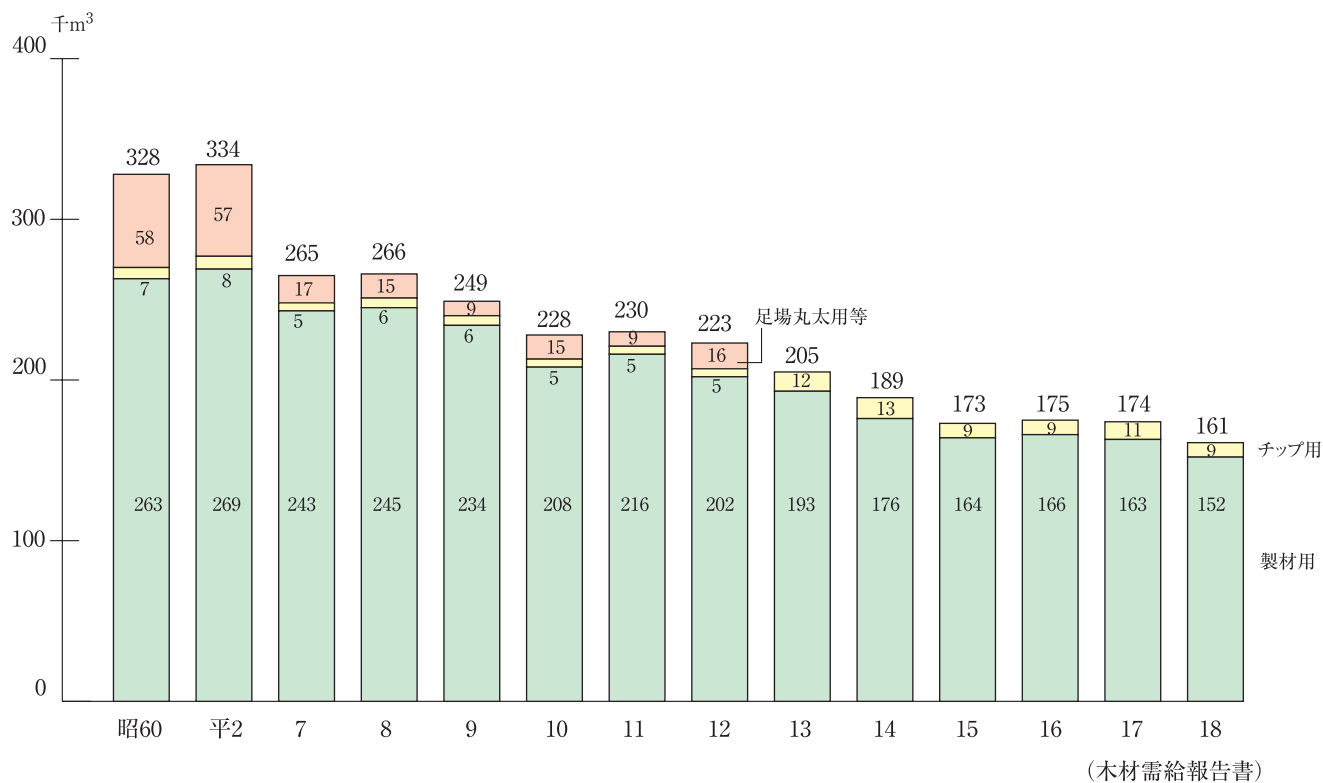


(県林業振興課業務資料 平成18年4月1日現在)

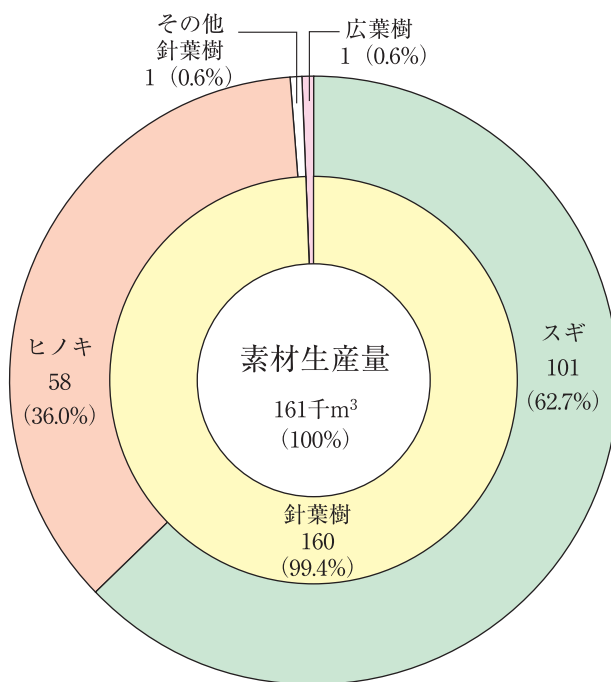
3) 林業生産

近年の木材生産活動は木材価格の低迷等から停滞している。
 一方、最近では輸入製品価格の高騰などから、国産材の需要が高まりつつある。

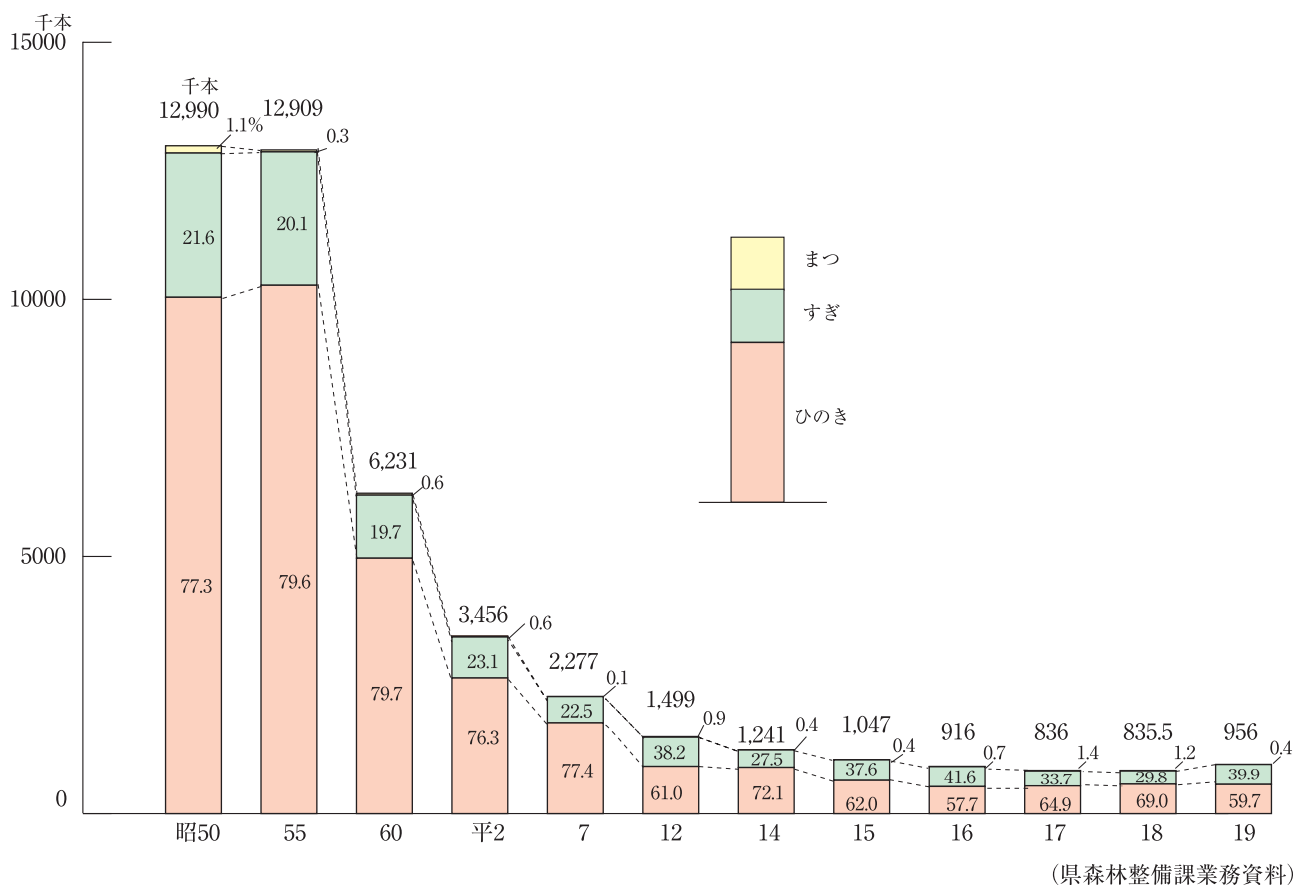
用途別素材生産量の推移



樹種別素材生産量 (平18)



山林用種苗生産本数の推移

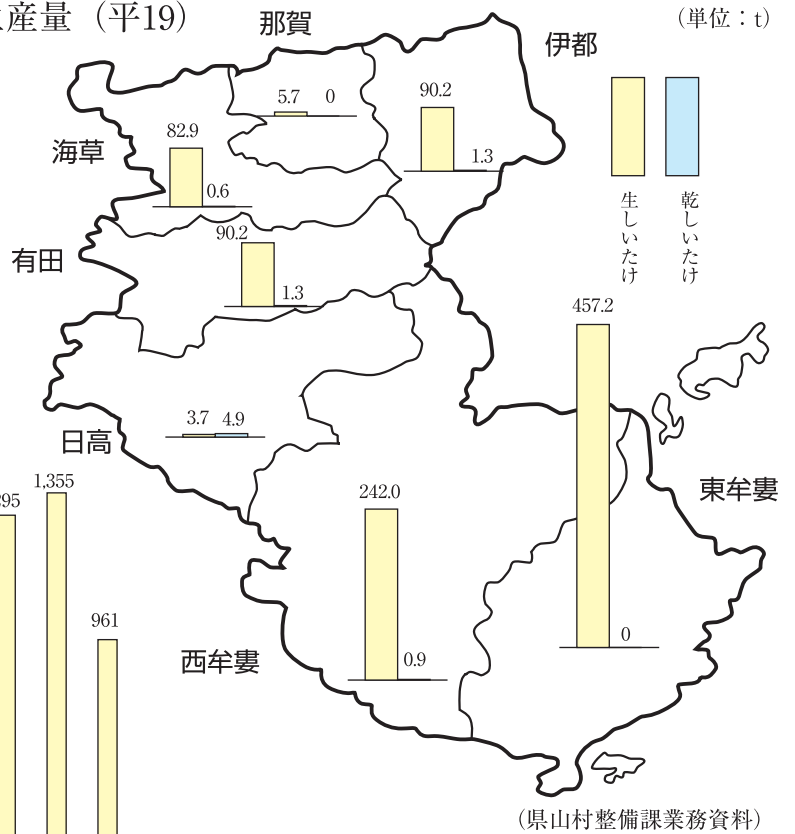


(県森林整備課業務資料)

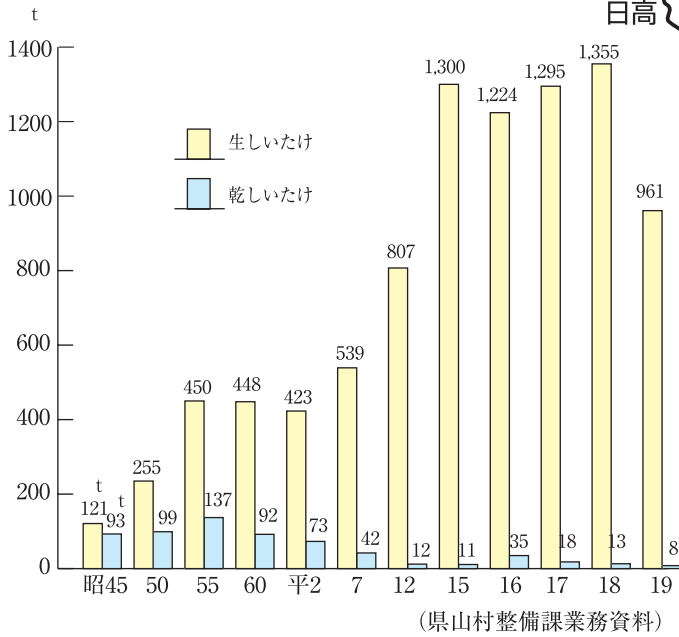
素材生産量

[平18]		全国	和歌山県		1位	2位	3位	
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
素材	合計(千m ³)	16,609	161	25	1.0	北海道	宮崎	岩手
材	針葉樹	14,017	160	24	1.1	北海道	宮崎	熊本
生	すぎ	8,059	101	21	1.3	宮崎	秋田	大分
産	ひのき	1,991	58	12	2.9	岡山	愛媛	三重
量	広葉樹	2,592	1	44	0.0	北海道	岩手	福島

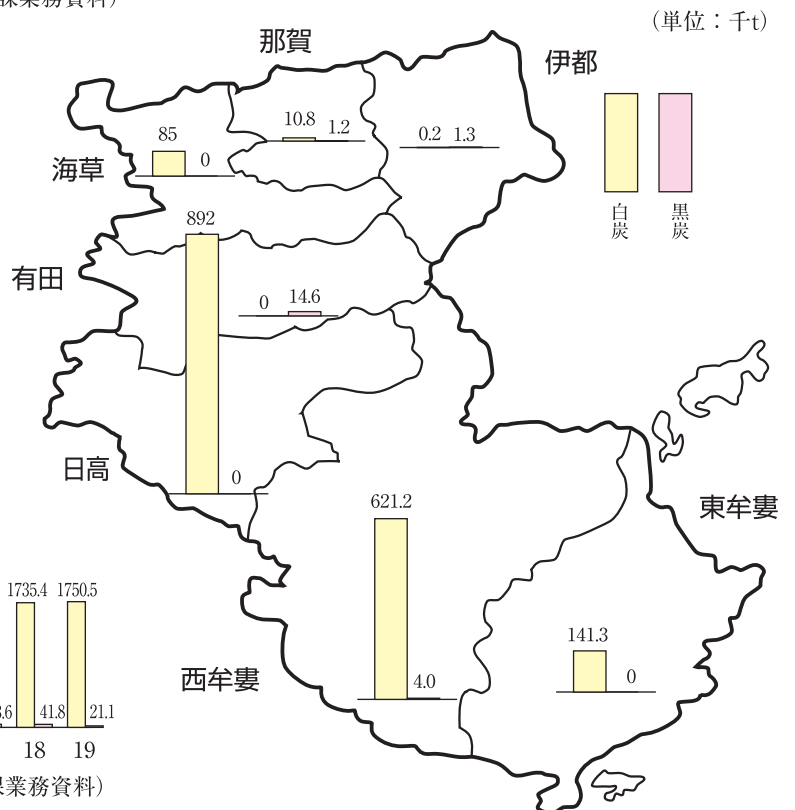
郡別・しいたけ生産量（平19）



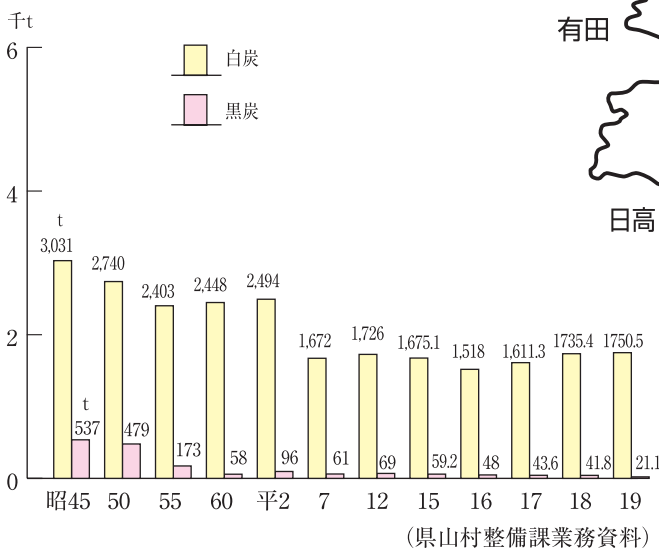
しいたけ生産量の推移



郡別・木炭生産量（平19）

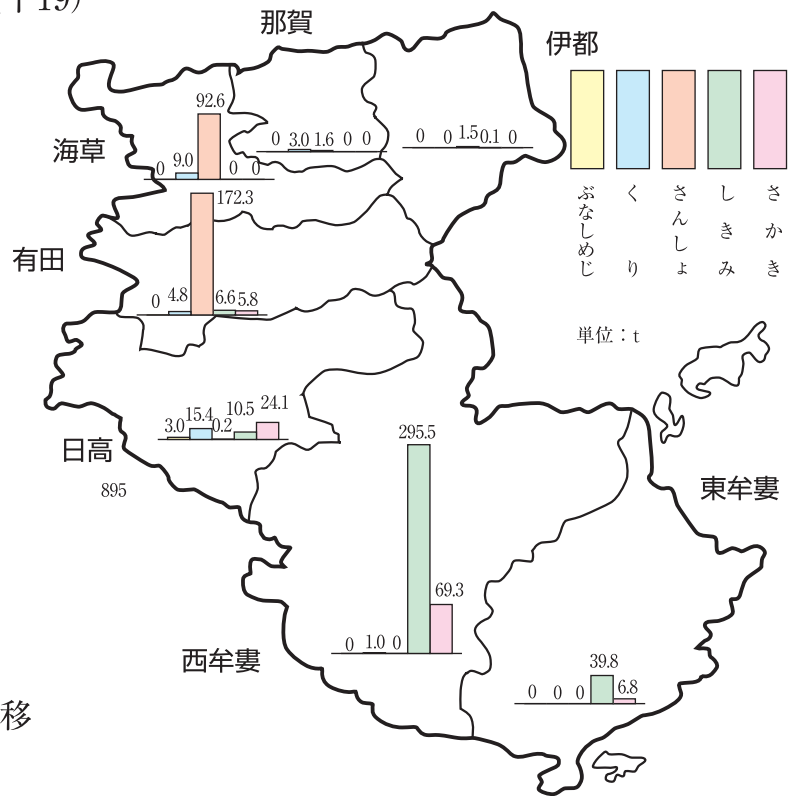


木炭生産量の推移

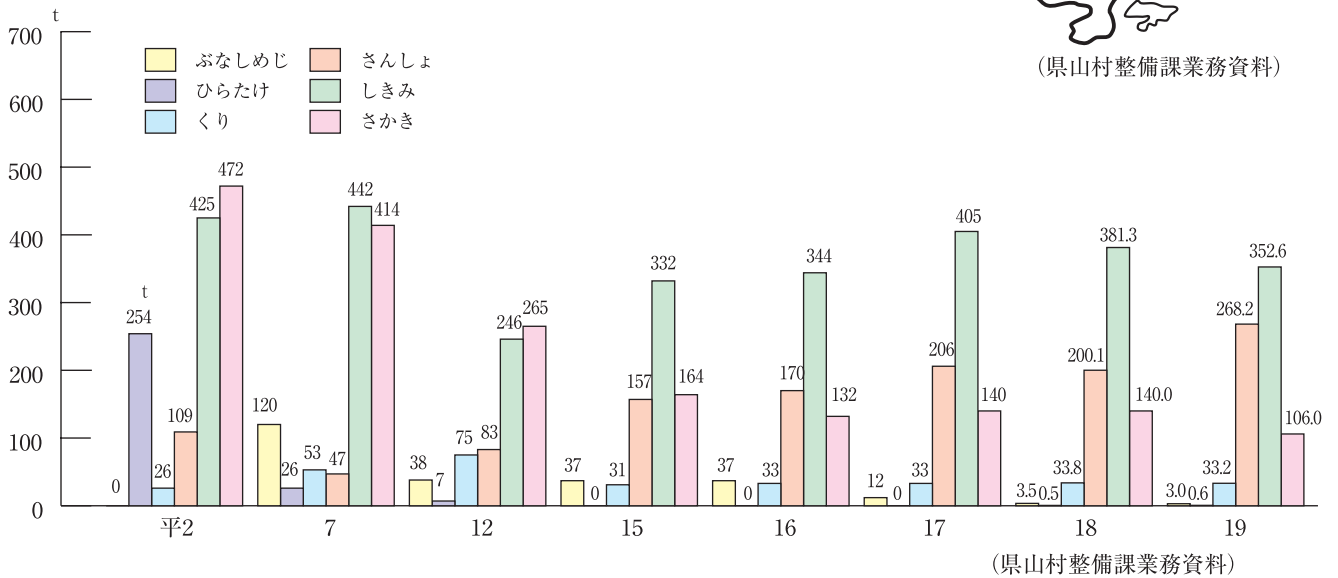


山村での主収入であった林業が低迷する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

郡別・その他特用林産物生産量（平19）



その他の特用林産物生産量の推移



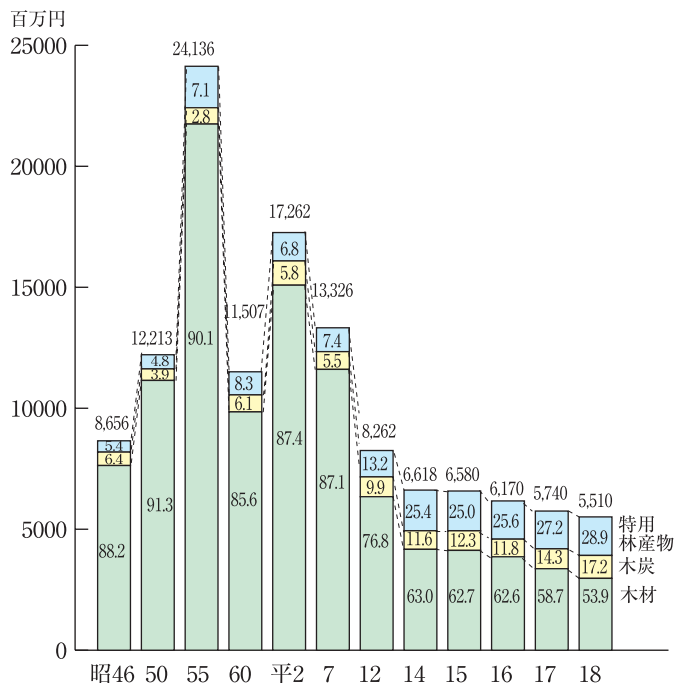
特用林産物生産量

〔平18〕 (t)	全 国		和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位
	実 数	順 位	実 数	シエア(%)	県名	県名	県名
乾しいたけ	3,860.9	26	13.3	0.3	大 分	宮 崎	岩 手
生しいたけ	66,348.5	15	1,355.1	2.0	徳 島	群 馬	栃 木
白 炭	3,558	1	1,735	48.8	和歌山	宮 崎	高 知
黒 炭	13,611	33	42	0.3	岩 手	北 海 道	福 島

4) 林業所得と林業産出額

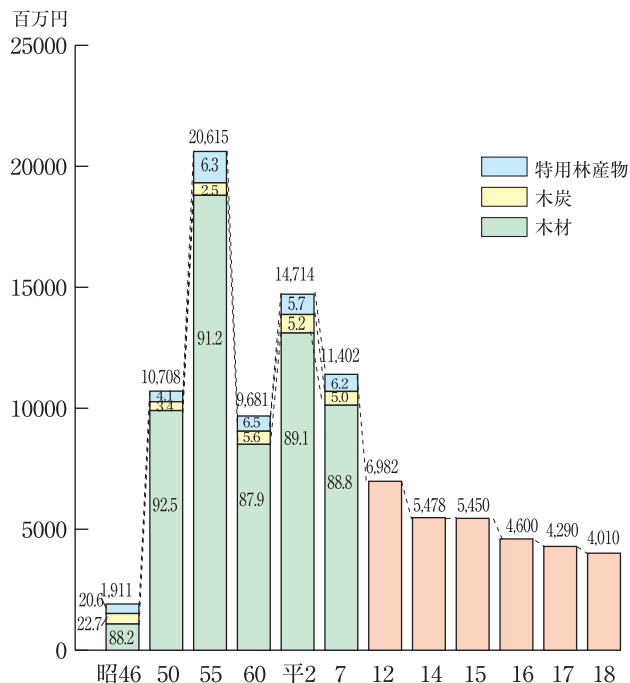
素材価格がピークであった昭和55年を契機に年々減少してきている。

林業産出額の推移



(生産林業所得統計報告書)

生産林業所得額の推移



(生産林業所得統計報告書)

※H10から内訳の計上がされていない

※枠内の数字はパーセントを表す

生産額

〔平18〕 (千万円)		全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位	
		実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
林 業	総 計	43,216	551	26	1.3	長 野	北 海 道	新 潟
産 出 額	木材生産	21,708	297	21	1.4	北 海 道	宮 崎	岩 手
生産林業所得	総 計	24,878	401	26	1.6	長 野	北 海 道	新 潟